

平成
24年度

今治市PTA連合会研修会が開かれる

輝くひとみ

第14号

平成25年3月15日発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
<http://www.imabiricity-pta.jp>

平成二十五年三月三日(日)十三時より波方公民館にて、今治市PTA連合会研修会が開催されました。
今治市PTA連合会会長 南條高輝の挨拶に始まり、昨年十二月に開催された愛媛県PTA大会においてPTA活動功労賞を受賞された関貴美子様、八木英典様、駄場建志様に、愛媛県PTA連合会会長感謝状の伝達が行われました。



来賓として今治市教育委員会、教育長 高橋実樹様と事務局局長 大成和幸様の紹介があり、高橋様より「教育とは人格の完成である」等々のご祝辞をいただきました。
次いで愛媛県PTA連合会会長 重見和典様も紹介され、開会行事が終了しました。

開会行事終了後は、今治市生まれで東北大学大学院生命科学研究所教授で、昨年、愛媛新聞の大型コラム「道標ふるさと伝言」を執筆された渡辺正夫先生の基調講演がありました。講師自身が小学生時代から現在までを振り返り、自然の中でたくさん経験・失敗をしたことが現在につながっていることや、最近の子供たちは実際の世界でなく、バーチャルのゲームでの経験が多くて心配していること、また、小中学校の後には、子供たちが自分で自分の人生を決めることの大切さなどについて、お話ししてくださいました。

最後に会長会を行い、来年度に向けて役員推薦委員の選任、球技大会についてなどの協議が行われ、PTA研修会は閉会となりました。



四国ブロックPTA 研究大会に参加して

菊川 有里子

大会スローガン

「親の笑顔が子どもの笑顔をつくる」未来(あす)の子どものための輝く笑顔のために」

第四十一回四国ブロックPTA研究大会「徳島大会」が平成二十四年十一月十一日(日)徳島県教育会館大ホールにて盛大に開催されました。大会当日、あいにくの雨にもかかわらず、四国各地から約八〇〇名のPTA会員が集まり満席となりました。

開会に先立ちミュージカル公演が行われ、開会行事の後、文部科学省の説明を受け、午後には記念講演としてシンガソングライター 南 修治氏の「愛されて子どもは育つ」トーク&コンサートが催されました。南氏は勉強や体格、体力で何においても優れていた兄弟と自分を比べ、劣等感をもって育ったそうです。兄弟との比較の中で生きていた南氏は、生きていく価値を見いだせず、劣等感をカバーするために非行の道へと走り、多くの方に迷惑をかけた時期がありました。しかし、歌との出会いや「自分は愛されている存在である」と気付かせてくれた方との出会いを通じ、自分を大切に出来るようになり、荒れた青春時代からの復活の経験を活かすべく、現在不登校の子どもたちや、心に宿題を与えられ、自分らしく生きる事が出

来ない子どもたちのケアを行っています。また親や援助者に向けて、子どもを「ありのままを愛する」ことの大切さを併せて伝えていきます。今では全国各地で年間一〇〇カ所のトーク&コンサートを行うとともに、カウンセリング講座、家庭教育などの学習の場で、二〇〇回の講義を行っているそうです。

私が思うに、今の親世代は、自分たちの親や社会の人々から、兄弟友人と比較され続けながら、競争社会を生きてきた人が多いのではないのでしょうか。親や社会から期待されるが故に、他人と比較され、その期待との乖離に苦しみ、「今のままの自分ではいけない。だめだ。」そんな思いを少なからず抱きながら頑張り続け、大人に成長してきた人々も多いのではないのでしょうか。そんな自分たちが親になると、子どもに同じように期待をかけ、頑張る事を求めてしまう……。

この講演の中で、南氏は「子どもの存在と心をありのまま愛する」ことが必要だと言っています。なぜなら、人とい

うものは「愛されること」によって自分を大切に出来る「存在であるからだ。それでは、大切な子どもたちのために今から始めてみませんか？」

まず第一歩。不十分なありのままの自分を愛する。ありのままの自分を愛することができれば、勿論ありのままの子どもを愛することもできます。

その愛を受けた子どもは自分自身を大切に愛せるはず。最後になりましたが、私は今回の大会で得た学びを今治市PTA連合会や単位PTA関係者に伝え広め、子どもたちの明るい未来のために活かされるよう願っています。



今治市PTA連合会の方々が表彰を受けられました。

- 日本PTA全国協議会会長表彰
片上 昌代
- PTA活動振興功労者愛媛県知事表彰
清水 邦彦
- 優良PTA愛媛県教育委員会教育長・愛媛県PTA連合会会長連名表彰
鳥生小学校PTA・朝倉中学校PTA
- PTA功労者愛媛県教育委員会教育長・愛媛県PTA連合会会長連名表彰
玉井 明子 小松 正義 丹下 健次
- 愛媛県PTA連合会会長感謝状
関 貴美子 八木 英典 駄場 建志



日本PTA会、小松正義さん、丹下健次さん、玉井明子さん、片上昌代さん

おめでとうございます。

ふくしまキッズと 吉海小学校との絆をつなぐ

桜井公民館主事 青野信久

二〇一一年の震災後に活動を開始した、「こどもの絆プロジェクト」も、冬・夏・冬と3回のプログラムを行いました。

最近の子どもたちの「遊ぶ」姿は、外だけではなく「遊ぶ」姿は、外だけではなくテレビゲームやインターネット・カードゲームをする姿も思い浮かびますが、福島県の子どもたちは自由時間があると、「外に行きたい」と、屋外に出て行きました。外で遊ぶことに対して食欲です。それだけ、我慢していたり、制約されたりして生活をしているのではないのでしょうか。

海で泳ぐ時には、「震災後に初めて泳いだー」「海の水ってしょっぱいんだね」と喜び、別の日には「今日は泳がないと言う友達に「帰ったら入れないんだから、今、入ろう」と呼びかけていました。それだけ海で泳ぎたい気持ちや、帰ったらできないという気持ちが強かったんだと思います。

夏のプログラムの目的の一つは、今治の子どもたちと福島の子どもたちが共に過ごして、深く絆をつなぐことです。吉海小学校との交流行事では、震災時の事を生の声で聞いてもらい、お互いに助け合う心を持ってもらうことができました。

参加した福島の子どもたちは欄に、「えひめさいこー」



情報交換会

平成二十四年十一月二十五日、平成二十四年度今治市PTA連合会情報交換会が波方公民館で行われました。

立花地区自主防災会会長の越智徹さんをお迎えして、「地域防災におけるPTAの役割」についてお話を頂きました。

広域避難所として学校を使うことになったら、学校の先生は学校運営、避難所運営は自主防災組織でまかなわなければなりません。

そのためには、防災を学んだ防災士でリーダーシップの取れる方が必要とされます。防災士は高齢の方も多く、PTAの若い世代の人の力が頼りになってくると訴えられていました。

「家庭でも、どこに避難するかを話し合ったり、防災グッズを用意したりする必要がありません。南海トラフの今治周辺の予想震度は6強。ビルや住宅の倒壊も予想されるので、家庭内でも家具などの転倒防止をしておく必要があります。

PTA、親として子どもを守ることを第一に考えると思いますが、PTAと地域が一体となり、防災の意識付けが必要だし、協力していきましょう。」

その後、防災食の試食をしたり、社会体育のあり方や、次年度PTA役員についての選び方などの意見交換が行われました。

多くのPTAの方に参加頂き、有意義な情報交換会になりました。



第58回愛媛県PTA大会

平成二十四年十二月十六日(日)、第五十八回愛媛県PTA大会が愛媛県総合運動公園の体育館で開催されました。

子どもが作る「弁当の日」提唱者・元公立小中学校校長の竹下和男先生の講演がありました。

「子どもを台所に立たせよう」という演題です。

はなちゃんのお母さんがガンのため、余命五ヶ月になったとき、どうしても子どもに伝えておきたいこととして、台所に立って、

毎朝お父さんのためにご飯とお味噌汁を作ったあげられるようになること。

家事全般が出来るようになること。

靴をそろえられる子になること。

お母さんは必死に教えたりしていました。

はなちゃんは五歳にして朝、台所に立ち、箸を削り、お味噌汁が作れる子どもになったそうです。

他の子どもは親がやってくれた当たり前の状況ですが、はなちゃんは、自分がやるのが当たり前環境にいます。

人のために役立つという体験がどれほど大切なことか、喜びを得ることがどれほど大切な体験なのかを強烈に教えられました。

「お弁当の日」を提唱されるには訳があります。子どもは味覚は三歳から九歳までが発達段階で、五歳をピークに落ちてくるそうです。

うです。

ちょうど幼稚園の頃に台所に立たせてあげて、味覚などの発達の手伝いをする必要があります。

台所に立つ理由として、①役に立ちたいということの証明をする。本能で役に立ちたいと思っっているそうです。

自分に価値がないと思うと自殺してしまう傾向があります。

②母と同じことをやりたいという欲求があり、それは大人になったつもりになるそうです。

親のやることを全て見ていて、何でもまねができるそうです。

③味覚を育てる。3歳から9歳に良く食べたものがその後の人生を決めてくれるそうです。

食べ物で繋がっているのに、家族の絆が取れていない。もつとおばあちゃんの味噌汁の味を伝えるべきだといわれました。

弁当の日は、親に手伝ってもらったことなく、子どもだけで弁当を作ってくるというルールがあるそうです。

ただ、やはり、親が手伝って作って来るそうです。

年間5回弁当の日があり、初めは自分で作ったものを自慢するそうです。たとえば、卵焼きの卵を割ったことだけを自慢する。おにぎりを握ったことだけを自慢する。自分がやったことを、友達に話すそうです。

回を重ねることに、自分で作る範囲が広がるそうです。5回目くらいには「全部自分で作った」と、「全部」という言葉を付けて自慢する

そうです。

子どもは親に、「今度は〇〇を作るから教えて!」と、親を頼ります。

今まで電子レンジで終わらせていた親も、子どもに教えないといけないため、必死で台所に立つそうです。そこで親子のコミュニケーションもとれ、親も子どもに成長させられます。

これが「弁当の日」のミソですね!

また、小学校で弁当を作る経験をした子どもは、大きくなってからも自炊をする確立が非常に高いそうです。

みんな小学生のころ、大人になった経験をした子どもが、お父さんやお母さん、先生のような大人になりたいと思っただけの子どもたちになったようです。

そうやって弁当を作ること、仕事が遅くてご飯が作れない親の手伝いが出てきます。

ある子どもは、晩ご飯を作り、親に「おいしね」と褒められて、喜びます。

またある時は、「美味しいからこれ、明日弁当に入れて会社の人に自慢しよう」と子どもを自慢するそうです。

そうすると、子どももかなり喜び、次はもっといいものを作ろうとか、いろいろ考えるそうです。

そういった食育で子どもが育った事例を、沢山聞かせてくださいました。

ぜひ、子どもさんを台所に立たせて、親子のコミュニケーションをとってくださいね。



受賞校の皆様おめでとうございます!

◇最優秀賞

小学校の部

美須賀小学校

中学校の部

日吉中学校

◇優秀賞

小学校の部

大西小学校

中学校の部

立花中学校

◇特別審査員賞

近見中学校

◇今治市PTA連会長賞

◇今治市PTA連会長賞

◇今治市PTA連会長賞

※今治市PTA連合会のホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。

以下に、特別審査員の方々のご講評を掲載させていただきますので、今後の広報紙作りの参考にいただければ幸いです。

第8回 広報紙コンクール

平成二十五年二月二十三日(土) 今治市桜井公民館にて第八回今治市PTA広報紙コンクールを開催しました。小学校二十三校、中学校十三校の応募がありました。各学校、特別審査員、市P連本部役員の採点を総合的に審査した結果、次の通り受賞校が決まりました。

各賞を受賞された学校の皆様、おめでとうございます。なお、最優秀賞、優秀賞の六校の広報紙は県PTAのコンクールに応募いたします。表彰は、本年五月の市PTA連合会総会にて行います。

広報紙コンクール 特別審査員 講評

愛媛新聞社今治支社編集部長
宮野 雄

学校行事やPTA活動をふんだんに盛り込まれていて、全体的に楽しく読めた。審査基準である①読みやすさ、わかりやすさ、②PTA活動内容が伝わる、③楽しいアイデア、企画を盛り込む。以上の3点を満たしている広報紙が高い評価を得ている。第三者視点で見るといじめ問題、災害時の避難経路の特集などに興味を抱いた。

読みやすさの点からみると、同じページに縦書き、横書き、斜め書きがあったり、どこから読めばいいのかわからないので一目で見てわかるレイアウトを考え、大きな見出しをつけたら、記事内容がわかる工夫があればよいと思った。

写真もみんなのものを載せたいという気持ちはわかるが、多すぎて見にくい部分がある。メインを大きく、その他を小さくして見やすい紙面にするとさらに良くなる。

広報部員さんのアンケートを拝見すると、敬意を感じ、敬意を表したいと思う。カラーやページ数に関係なく、読みやすさ、見やすさ、タイムリーな読み物があればよいと思う。

PTA活動を通じて興味を持ったテーマや感じたことを、積極的に記事に取り上げて欲しい。

楽しみながら、読み手にわかりやすいものという気持ちで頑張っていたきたい。

今治市教育委員会委員長
西原 透

年間テーマを決めて作る学校が何校もあり、素晴らしいと感じた。学校だよりとPTAだより、このバランスがどうなのかを感じている。学校行事のみに追われ、PTAとして感じられること、興味をもたれることを一つでもいいので取り上げれば良いと思った。

大西小学校は防災の観点から紙面づくりをされ、広報部の苦勞を感じたが、とても良い出来で、地域に全戸に配布しても良いくらいの上の仕上がりで、感心した。この号だけでもテーマを決め、意志を持ち紙面を作る。取材、ディスプレイ、アンケートなどを使うと訴える力が強くなる。

今治市教育委員会では学校統合が大きなテーマで、その話題は1校のみであった。統合協議会からの便りだけで足りているのか?取り上げて良い話題ではないかと感じた。

色々とたくさん載せようとしてごちゃごちゃになっているのも見ていてしんどいので、もう少し白地があれば見やすいと思う。また、写真にはひとことコメントが欲しい。全体的に一生懸命であった。テーマ設定をして、一つの芯があればぶれずに作ることができ、苦勞しても苦勞のしがいがある作品ができると思う。

今治教育推進協議会副会長
野間 典子

2人と同様、審査結果を見てもわかるように、評価する部分は似ている。一生懸命作っているとは思いますが、学校便りになっている学校もあり、広報紙研修会の効果が出ていない部分を感じたのが残念だ。

各学校のアンケートを見たが、広報部員の思いが伝わり、親身になって審査することが出来た。

審査に提出された広報紙だけしか見られないので、前後の号も見たいと思った。代表作や力作など、最高のものを提出してもらいたいと思う。

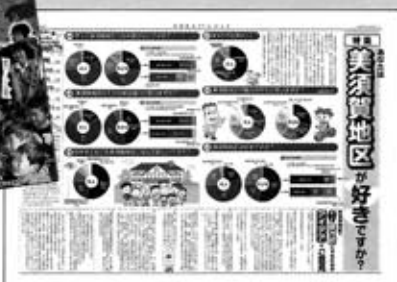
審査基準に忠実に従ったため、紙面もすばらしかったが、PTA活動の報告がないため評価が低くなった学校もあった。テーマを考え、学校便りやPTA活動をバランスよく配置するのは難しいが、次の広報紙を頑張ってもらいたい。今年はずばらしい紙面作りができているところもあって、大変うれしかった。



広報紙コンクール最優秀作品



《小学校の部》



《中学校の部》

今治市PTA連合会ではHPを開設しております。

<http://www.imabaricity-pta.jp/>

名前:今治市PTA連合会

今治市PTA連合会

検索

ユーザー名:imabari_pta

美須賀中学校閉校



昭和二十二年四月一日に今治第一中学校として開校された美須賀中学校。六十六年の歴史の中で沢山の卒業生・地域の方に愛されてまいりました。今治城の前に建つ中学校、本当に環境に恵まれた場所にあります。

今まで一万四千人を超える卒業生がいまいます。先輩たちは輝かしい記録を残してくれています。水泳部は、県大会優勝十六回、四国大会優勝七回を誇る最強の運動部でした。栄光の記録とは何といっても平成九年野球部全国優勝でしょう。今、美須賀中学校に勤務されていますが、高井教頭先生が当時監督として活躍していらつしやいました。当時の岡島市長と一緒に写した写真があります。生徒たちの誇らしげな顔！本当に記録に記憶に残るすばらしい歴史です。

PTA活動は、生徒数が少ない分、年一回は保護者の方に参加していただくようになっていました。お仕事の

都合を工面していただき沢山の保護者の方が参加してくださいました。親土のつながりができ、またより密な学校・先生方との繋がりができます。

しかし泣いても笑っても三月末をもって閉校となってしまいます。楽しい思い出をたくさんありがとう。美須賀中学校ありがとう。



大西中学校創立五十周年



大西中学校は、創立五十周年を迎え、記念式典が十一月四日(日)に盛大に挙行されました。

力強い新町荒神太鼓で幕を開け、くす玉割り、記念ミニイベントの除幕、今治市長 菅良二様をはじめ多くの方々のご祝辞、PTA会長による万歳三唱、本校卒業生で神戸大学大学院教授 渡部昭男先生による記念講演が開催されました。

また、創立から五十年の歴史を物語る記念誌も出来上がり、中には沿革や栄光の軌跡が記されています。この記念事業のために、多くの卒業生や地域の方々にご協力をいただき感謝しています。



編集後記

一年間のPTA活動もひと区切りの時期を迎えました。今号も皆様の協力があったて発行できたことに感謝いたします。美須賀中学校の閉校や、小学校・中学校統合など、今後、大きな動きがあります。

PTA四国大会や県大会などに参加すると、真剣に子どもたちと向き合うPTAの姿を学ぶことができました。

ぜひ、記事をご覧頂き、PTA活動の本質を体感いただければ幸いです。

今後とも皆様の力でPTA活動を盛り上げていきましょう。

H24今治市PTA連合会 広報公聴部員

- 部長(1区) 河上 貴之 今治小
- 区長理事(1区) 菊川有里子 美須賀小
- 1区 佐多賀 淳 城東小
- 1区 塚田 正彦 北郷中
- 1区 西森 栄喜 鳥生小
- 副会長(1区) 丹下 健次 清水小

- 2区 山本 健介 下朝小
- 2区 清家 文広 大西中
- 副会長(2区) 鎌田美代子 大西中
- 3区 矢野 勝 吉海小
- 3区 赤瀬 知秀 伯方小
- 区長理事(3区) 馬越 義人 伯方中
- 教員理事(教頭会) 豊島 禎廣 大西中